

宇都宮美術館
友の会ニユース

の森 アート

第19号 2017・9



ラウル・デュフィ 《花束》 1951年 163.5×122.9cm フレスコ

ラウル・デュフィは、1877年にフランスの港町ル・アーヴルに生まれ、今年で生誕140年を迎えます。デュフィは、第二次世界大戦の初期、静物画や花瓶に生けられた花束の水彩画を多く描いています。本作は、それらの集大成ともいえる作品で、1930年代後半から患っていた多発性関節炎の療養のため、1952年に移住したフォルカルクイエのアトリエの壁にフレスコで描かれたものです。同年に、デュフィは、自分の好きな音楽家たちへのオマージュを数点制作しています。中でも、ポンピドゥー・センター所蔵の《ヴァイオリンのある静物：バッハへのオマージュ》、ニース美術館とアンドレ・マルロー美術館に所蔵されている《クロード・ドビュッシーへのオマージュ》の画面右側には本作が登場しています。デュフィは、作品の中に描いたモチーフを自身の別の作品にもしばしば描きこんでいます。そのため、デュフィの作品をみるといつも新しい発見があるような気がします。目を凝らしてデュフィ作品をよくみて、さまざまな発見をしていただけたらと思います。（嘱託学芸員 塚本敬介）

新任あいさつ 宇都宮美術館 館長 佐々木吉晴

この4月、谷前館長の後を継いで館長になりました佐々木です。出身は宮城県塩竈市。長く福島県の浜通り、いわき市の市立美術館に勤務しておりました（事情があって、現在も同館長を兼務しております）。大学では美学西洋美術史を学びましたので、一応専門は西洋美術、現代美術、博物館学ということになっていますが、そこは根っからの美術館人、興味・関心のベクトルはそちこちとかなりランダムに開かれていて、これまで手掛けた展覧会もオーソドックスな美術展のみならず、古代文明展からシルクロード展、アボリジニ美術やアフリカの造形、マンガ展などさまざまです。毎週前半、1～2日ずつ出勤しております。どうぞよろしくをお願いします。

着任したときは「ベルギー奇想の系譜」展開催中でした。当館の宝マグリット「大家族」につながる約500年のフランドル＝ベルギー美術を貫くものとして「奇想」に着目するユニークな試みは、まさにこの美術館だからこそこの展覧会で、着任早々のわたしにとっても、図らずもいい勉強になりました。次の「美術館狂詩曲」は、当館のコレクションをエラスムスの名著を手掛かりに読み解く企画で、切り口を変えると見方や考え方がこんなにも変わるものかと、改めて感じた人も少なくなかったのではないのでしょうか。長い間集め続けてきた

コレクションは、美術館にとっても市民にとってもかけがえのない財産です。ルーヴルのように、本来はこうしたコレクションを展示する常設展こそが来館を促す最も重要な「資源」なのですが、これまで日本では展覧会イベントのみが偏重され、常設展はとかく軽視されがちだったように思います。そうした反省を踏まえ、今回のユニークな展覧会のように質・量ともに充実したコレクションの魅力をさまざまな角度から最大限に引き出し、活かしていくことも、わたしたちのこれからの一層大切な使命と考えています。また、現在開催中の「KIGI WORK&FREE」展も、生活と美術（デザイン）を大きな柱に据えて活動してきた当館ならではの企画です。お見逃しなく。

ときには癒しとなり、ときには発見や驚きを伴う刺激にもなる。美術館が提供する美術との多様な出会いと体験は、回を重ねれば重ねるほど、個々人にも地域にも、生きる上でかけがえのない豊かで確固とした何かをもたらしてくれるはず。是非、何度でも、足をお運びください。



平成29年度定期総会

5月13日

新緑が眩しい候、宇都宮美術館講義室に於いて開催されました。青木会長の開会挨拶に続き、宇都宮美術館佐々木新館長のご挨拶を頂き議案審議に入りました。議事「第1号～第4号議案」平成28年度事業報告、決算報告、監査報告、平成29年度事業計画、事業予算、役員の変更が審議され承認されました。総会后、佐々木館長による「平成29年度宇都宮美術館企画展の概要」と題して記念講演がありました。本年度も魅力ある企画展

が続きます。沢山のご来館をお待ちしております。その後開催のU-moaコンサートでは「マイルド・アップル・パイ」のお二人によるビートルズナンバーを楽しみました。アコースティックな音色に、会場の皆さんは青春の彼方にタイムスリップしていました。



花魁草（おいらんそう）
擬宝珠（ぎぼうし）

平成29年度事業計画

実施月日	事業内容	担当部
平成29年		
5月 5日	子どもフェスタin文化の森2017	共 催
5月13日	平成29年度定期総会	総 務 部
7月12日	春の美術館めぐり(日帰り)	事 業 部
7月23日	美術講演会	発 見 部
9月 8日	会報「アートの森」第19号発行	広 報 部
9月	U-moaコンサート	総 務 部
10月	作家紹介(友の会ボード)	発 見 部
11月	秋の美術館めぐり(一泊旅行)	事 業 部
平成30年		
1月	新春のつどい	事 業 部
2月	賛助法人懇談会	総 務 部
3月30日	会報「アートの森」第20号発行	広 報 部

会 長：青木紀一郎
副 会 長：渡辺勝己 甘利知子 青木ひろこ
監 事：野澤 寛 菅野明子
総務部長：松林慎二 副部長：河合 正
事業部長：石塚 豊 副部長：鈴木久子
広報部長：水垣俊子 副部長：阿部エツ子
発見部長：亀井研一 副部長：小林和子

子どもフェスタin文化の森2017 5月5日

宇都宮美術館・宇都宮美術館友の会・豊かな郷づくり推進協議会

今年もまた一年に一度だけ、いつも静寂に包まれている宇都宮美術館周辺の森が、子どもたちを中心にした家族連れの数千人の賑わいでカラフルに彩られました。

少子化の世の中ですが、様々な出店テントや鯉のぼりに囲まれて、よちよち歩きの幼児からキラキラした瞳の小中学生までが楽しそうにおしゃべりしています。

夏休みのラジオ体操から、保育園・幼稚園のはしゃぎ声までも最近騒音公害として通報されたりしているそうですが、ここではそんな遠慮はありません。いったい何時から大人社会は子どもたちに不寛容になってしまったのでしょうか。電車やバスに乗るにもベビーカーのお母さんは肩身が狭くなっています。

風鈴の音がうるさい！と言われて、都会の軒下ではめっきり見られなくなるし、風情を感じる「心のゆとり」を失いつつある時代。そんな時に、目に見える価値以上のものを求めて美術館に人は足を運びます。その聖域の森に子供たちが安心して解放される子どもフェスタ、毎年楽しみに参加しているゲストたちが増えています。(写真・文 平出晴夫)



友の会に在籍して20年 振興会10年・友の会10年

22年ほど前、じゃり道をマイクロバスに揺られて今の文化の森に下り立ちました。ヘルメットをかぶり工事中の美術館を見学したことがなつかしく思い出されます。当時油絵を描いていたこともあり、謡曲の指導を受けていた安久都和夫(元振興会副会長)先生より声をかけられ運営委員の一員となりました。何事も足踏時は問題も山積みでした。紆余曲折はありましたが多くの資料を抱え組織作りが進行して行きました。振興会と平行して「作品解説倶楽部」に参加し10数年を過ごしました。

部員たちとの垣根をはずした時間が過ぎました。その頃谷館長の新邸宅を訪問しピザパーティを楽しませていただいたり、解説の教育を受けた青木理元副館長には得意の手料理を何度かごちそうになり舌鼓を打ちました。「大家族」の一人となったような毎日でした。

振興会から友の会に移行し10年前からの流れを知る人と言われ、運営委員を引き受けることとなりました。おだやかで居心地の良い中、各部共に前向きに活動しました。青木紀一郎会長の豊かな人脈とリーダーシップの力により会員も500~600人となり安定しています。美術館や事務局の協力も多くなりますの発展を祈っております。

これからはアットホームな「小家族」の発見部の一員として、しずかに好きな美術作品と対話しながら過ごしたいと考えています。永い間ありがとうございました。

マグリットの鳥いる館うららかや (前副会長・川上光枝)

宇都宮美術館の開館と同時に、その活動支援を目的としたボランティア団体振興会も活動を開始しました。第一に自宅から近い、第二にArtに興味がある、との理由でそのお仲間に加わりました。新しく出来た団体なので皆さま意欲満々。その勢いに押されっぱなしでした。ボランティアとは一体何なのだろうか？一人でも多くの方々に来館していただくにはどのような働きかけをすればよいのだろうか？等々。答えのない疑問ばかり頭の中で回転している事もありました。古来、10年1日という言葉がありますが、その年月はお互いの意思の疎通を図るには必要な時間だったように思います。振興会としての10年が過ぎ友の会と名称を変更して、さらに意欲的に活動の中が広がりました。

驚くほどたくさんのお会いがありました事は、何事にも変えがたい嬉しさです。学んだ事も数多く、講義室で指導を受けそのまま図書館へ直行。参考書を探しレポートを書く。そんな行動も私にとっては楽しい時間でした。

そして今年「美術館狂詩曲-20世紀の痴愚神礼讃」展では、高校の恩師の作品が6点展示されていて、それを見た瞬間高校時代の数々の思い出に大興奮です。心ひそかに、そんな事があるとうれしいなあと思っていたので、20年目で現実のものとなりました。自宅から徒歩50分の場所に建つ宇都宮美術館へは今後も足繁く通う事でしょう。

(前監事・柴田紀恵)

新春のつどい

1月22日



「和久文子と邦楽ゾリスデン〜^{chi se dai}智世代〜」
 クリスマスの夕べに代わる新春のつどいが開催されました。
 春の海、六段の調…「笑点」のテーマ曲まで、お琴と尺八
 の美しい音色と楽しいメロディが会場をつつみ、年明けに
 ふさわしいひとときを過ごしました。(阿部エツ子)

春の美術館めぐり

7月12日



町田市立国際版画美術館

江戸東京博物館：NHK大河ドラマ「おんな城主直虎」特別展を見学。
 又江戸時代の華やかな生活文化を知ることができた。その他、日本列
 島で発掘された埋蔵文化財の数に驚く。

町田市立国際版画美術館：戦争「版に刻む記憶」普段見ることの少な
 いヨーロッパの銅版画家3人(カコ、ゴヤ、ディックス)の作品は、戦争に
 なる人間が野獣化し、人が人を殺す惨状を詳細にそれぞれの個性で
 刻んでいた。戦争絶対反対。この美術館のエントランスホールの壁は
 大谷石が使用されており、うれしさと親しみを感じた美術館でした。

深大寺：東日本で二番目に古い寺は、深々とした緑の木立の中にあっ
 た。平成29年3月に国宝に指定された釈迦如来像(白鳳期の傑作)を
 拝観。国宝物の右手の施無畏の指先2本が損なわれていた。

はてしらぬ仏の笑まひ面あかる灯映りにしてみ掌の欠けたる
 白秋

(江連京子)

企画展のご案内

- ☆ KIGI WORK & FREE 7月16日(日)～9月24日(日)
- ☆ エドワード・ゴッリーの優雅な秘密 10月8日(日)～11月26日(日)
- ☆ 灰野文一郎展 2018年1月28日(日)～4月15日(日)

賛助法人会員との懇談会

2月23日

会を重ねる度に活発な意見交換がされるようになった。
 賛助法人会員との懇談会は9社11名の方々と谷前館長、
 友の会役員とで和やかに行われました。また開催中の大
 谷石関連企画展は身近な題材で興味深く観賞しました。
 (柴田紀恵)

会員加入状況

2017年7月31日現在 単位：人

一般会員	ペア会員	賛助個人会員	賛助法人会員	合計
277	222	27	24(口)	550

賛助法人会員

(株)西邑画廊 (株)三向地所 (株)田村緑知苑 (株)酒井建築設計事務所
 中央電機通信(株) 環境整備(株) 栃木実業(株) 栃の木地所(株) 晋豊建設(株)
 (株)穴吹工務店宇都宮サーパス会 (株)スズテック (有)マルワガラス
 三信電工(株) 東亜警備保障(株) 栃木トヨタ自動車(株) 磯部建設株式会社
 (株)ケイエムシー (学)宇都宮美術学院 宇都宮メディア・アーツ専門学校
 (株)栃木銀行 株式会社 興建 イートランド(株) 宮ビルサービス(株)
 ランスタッド(株)宇都宮オフィス (医)北斗会 宇都宮東病院

(入会順)



数萱草(やぶかんぞう)
 狗尾草(えのころぐさ)

編集ノート

美術館の山桜が柔らかなピンク色の花を付ける4月中旬、19号の編集が
 スタート。初回、弁当を忘れた新米部員に皆さんはさり気なく分けて下
 さり、結果的に一番豪華なお弁当に！お弁当ではありませんが、広報部
 員の思いや経験・知識・感性を述べ合い、より良い物をという先輩部員
 の姿に魅せられながら、豊かな森の美術館へと通いました。

(木村啓子)

<アートノ森> 第19号 (通巻42号)

発行日 2017年9月8日
 発行 宇都宮美術館友の会(宇都宮美術館内)
 〒320-0004 宇都宮市長岡町1077
 ☎028-643-0100